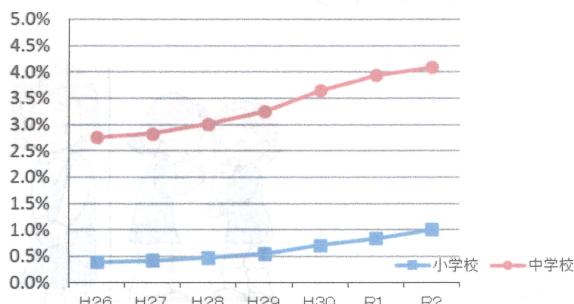


不登校の予防に向けて

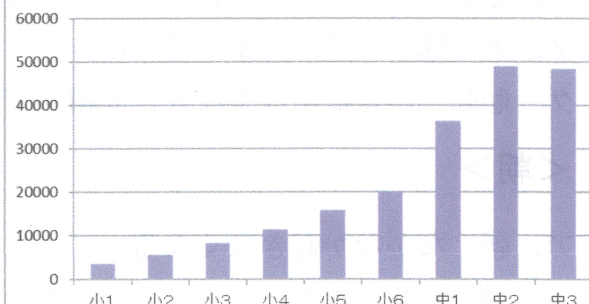
家庭と学校が確かな絆を結び、子どもの健やかな成長を

不登校とは、「友達とのトラブル」「勉強がわからない」「やる気が起きない」など、子どもが登校しない、あるいはしたくてもできない状況で、欠席が年間30日以上のことをさします。令和2年度の全国の不登校児童生徒の割合は小学校1.0%、中学校4.1%となり、いずれも過去最高となっています。

令和2年度 全国の不登校児童生徒の割合の推移



令和2年度 全国の不登校児童生徒の学年別人数



特に、中学1年生では学習や生活の変化になじめなかったり、中学2年生から3年生にかけては思春期の不安定な時期と重なったりすることで、不登校となる生徒が増加します。また、近年、小学校でも不登校児童数は増加傾向にあり、問題の低年齢化が見られます。

家庭と学校との十分な連携

不登校を予防するためには、学校と家庭が日頃から子どもの様子を伝え合う必要があります。学校では現在、不登校にならないように、小・中学校の連携強化、教育相談体制の充実、そして子どもの休みはじめの段階での早期の対応に努めています。しかし、学校だけで全ての子どもの不登校につながる悩みを、早期に発見することは難しいのが現状です。そこで、家庭においても、子どもの悩みの早期発見に向け、日頃から学校との十分な連携をお願いします。



例えば「表情が暗く、不安げな様子が見られる」「朝、なかなか起きなくなる」など、裏面に記載している様子が見られたら、**遠慮なく、学校に連絡をお願いします**。学校は家庭と一緒に、子どもの悩みの「背景や原因」の把握に努め、お子様にと

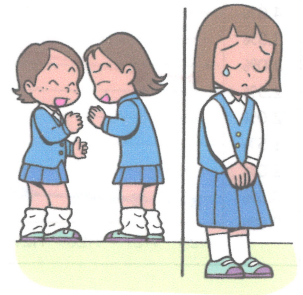
って一番良い方法を考えていきます。

家庭で発見できる不登校のサイン(例)

全ての子どもは様々な悩みを抱えています。しかし、それを上手に言葉にし、大人に伝えられる子どもばかりではありません。その代わりに、子どもは「悩みのサイン」を大人に送っています。以下は、子どもの「悩みのサイン」の例です。

〔一般的な様子〕

- ア. 表情が暗く沈んでいるなど、不安げな様子が見られるようになる。
- イ. イライラしたり、ふてくされたり、言葉遣いが荒くなる。
- ウ. 他の人があいさつしたり、話しかけたりしても、嫌がるようになる。
- エ. 何かを決めるのに、時間がかかるようになる。
- オ. 気分の浮き沈みが見られるようになる。
- カ. 人の視線やうわさを気にするようになる。
- キ. 必要以上に甘えたり、わがままになったりするようになる。
- ク. 弟や妹をいじめるようになる。
- ケ. 勉強への意欲がなくなり、成績が下がる。



<朝>

- ア. 朝、なかなか起きなくなる。
- イ. 登校時刻になると、トイレに行くようになる。
- ウ. 着替えや朝食等、登校準備に時間がかかるようになる。
- エ. 頭痛・腹痛・発熱などを訴^うえるようになる。

<夕方・夜>

- ア. 翌日の学習用具の準備をなかなかしなくなる。
- イ. 夜遅くまで、パソコンやゲーム、携帯電話(スマートフォン)、SNS等に夢中になる。
- ウ. 学校の様子を聞いても、答えなくなる。
- エ. 友達や教師への不満などをつぶやくようになる。
- オ. 「つかれた」を何度も言うようになる。

<土日>

- ア. 外で友達と遊ぶことがなくなり、自分の部屋に閉じこもりがちになる。
- イ. 日曜日の夕方に体調の不調を訴えようになる。(月曜日等、休み明けに欠席する。)
- ウ. 今まで遊びに来た友達が、家に来なくなるなど、友人関係が変わる。
- エ. 部活動を休むようになる。